

中頓別町

横田 文

1 . 中頓別町の概要

1 - 1 位置

中頓別町は、北海道の北部、宗谷管内の東南に位置し、東南に歌登町、北は浜頓別町に接し、西及び西南方は天塩山脈をへだてて上川支庁管内の幌延町と接していて、旭川から車で約 3 時間半、札幌から約 5 時間、稚内から約 2 時間のまちである。

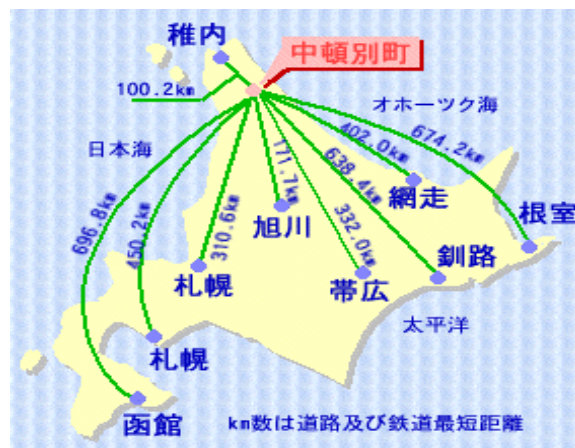


図1 北海道における中頓別町の位置



図2 中頓別町内図

1 - 2 地名の由来

「中頓別」という地名の由来は、中頓別町が頓別川の中流に位置することに起因する。頓別川の「頓別」は元々アイヌ語の「ト・ウン・ベツ」(沼に行く川)から転訛したもので、そこから中頓別は中頓別と呼ばれるようになったと言われている。

1 - 3 気候



中頓別町の中央部が秀峰ピンネシリ岳(704m)を中心とした山岳地で、南西部は標高500m 前後の北見山脈、東部はポロヌプリ山(838m)をはじめとする高山をもつ山岳地が広く分布し、いずれも起伏状急峻で、これから発した頓別川、兵知安川の2川が中央部を北流し、多くの支流を合わせつつやがて1つの川となってオホーツク海に注いでいる。こうした高い山々に囲まれているため、夏は暖かく冬は寒い盆地に似た気候である。オホーツク海側では、流氷の影響等によって-20度以下になることがあるが、内陸部ではさらに-30度以下になる場合もある。面積は398,55km²で、東緯 142°17'33"、北緯 44°58'15"の位置といえる。

2 . 中頓別町の開拓の歴史

中頓別に、人が住み始めたのがいつかはまだくわしくは分かっていない。しかし、町の中には縄文時代の遺跡があり、石器や土器も見つかっていることから、約二千年前から人が暮らしていたということである。その後、アイヌ人たちが、サケをとるためにこの周りで生活するようになっていく。しかし人の数も家の数もほんのわずかで、今の町の様子とは程遠かった。中頓別の昔の様子が大体分かってくるのは、江戸から明治に変わってからのことである。

明治30年頃、中頓別の頓別川から砂金が発見される。金は大変珍しく高価なものだったため、人々がたくさんこの中頓別にやってきた。同じ頃、北海道では開拓が進められているところだった。中頓別の周りは「頓別原野」と呼ばれ、そこに檜原民之助(ならはら・たみのすけ)さんがやってきて農耕を始めたことから中頓別の開拓がはじまったのである。

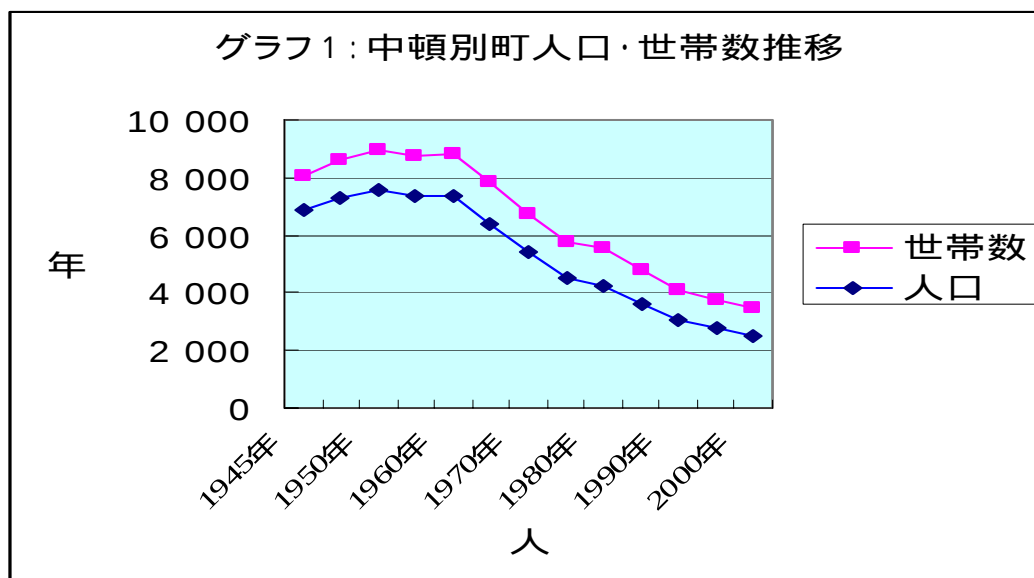
その後、道徳安二（どうとく・やすじ）、藤井清助（ふじい・せいすけ）、桑原弥市（くわばら・やいち）等が住み始め、少しずつ人口が増加していく。この当時、直径1 m 以上の大木がたくさん繁っていて、人々はこれを切り倒し、畑や住む場所をつくらなければならなかったが、それでも人々は力を合わせて少しずつ町を大きくしていったのである。



図3 中頓別ベーチャン川砂金堀の状況

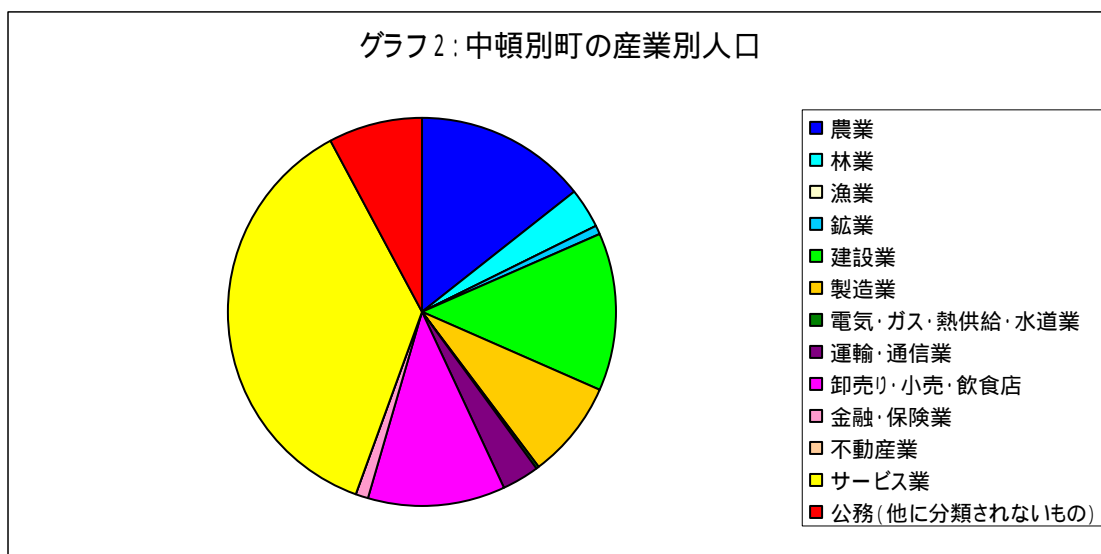
3．中頓別町の人口

中頓別町には、2000年の時点で2518人の人が住んでいる。そのうち1237人が男性で、残りの1281人が女性である。下の人口・世帯推移をまとめたグラフを見ても分かるように、1950年に人口のピークを迎え、その後どんどん人口は減少の傾向にある。また、この中頓別町でも高齢化は進み、人口の約4割が高齢者である。



4.中頓別町の産業

中頓別町における産業別人口は下のグラフの通りである。中頓別町では農林水産業、すなわち第 1 次産業に就業している人が 229 人、鉱業、建設業、生産業の第 2 次産業に就業している人が 279 人、残りの第 3 次産業に就業している人が 771 人と第 3 次産業の比率の多さが見て取れた。特にサービス業に就業している人は 470 人と人口 2500 人の小さいまちとして見るとかなりの数だといえる。



また、中頓別町は広大な森林を利用した林業と約 4300 頭もの乳牛を飼育する酪農が基幹産業となっていて、18 億 6 千万円もの産出を行っている。以前は畑作が中心であったが、1955 年に森永乳業の前身である町営製酪事業が中頓別町で操業したことから畑作から酪農に変わったとされている。よって、農業では乳用牛の産出が全体の 99% を占めていて、農業は酪農が主体となっており、良品質で安全な牛乳を生産している。現在では足腰の強い農業構造を目指し、経営体質の強化などに取り組んでいる。ちなみに残り 1% の産出は、大根、白菜、キャベツ、馬鈴薯などによる産出である。就業人口のうち約 20% は農業就業者である。

5. 観光

1. ペーチャン川砂金堀体験上

中頓別町は歴史のところでも述べたように、砂金発掘の地として有名である。その砂金堀を実際に体験できるのがこの「ペーチャン川砂金堀体験場」である。ここではゴールドパンという砂金粒を採る器具を使いながら子どもから大人まで楽しめる体験レジャーゾーン。6 月下旬から 9 月末まで砂金堀りが体験できる。



図 4 実際に砂金を掘るところ

2. ピンネシリオートキャンプ場

敏音知岳を望む国道 275 号に面したオートキャンプ場。木立に囲まれ、小鳥のさえずりの中でアウトドアが楽しめる。近くを流れる頓別川では、ヤマベなどの溪流釣りも楽しめる。26 張りのテントサイトと 15 カ所のキャンピングカーサイトのほか、コテージ 4 棟もある。水洗トイレ、炊事場、電話、売店、ランドリー、自動販売機などの設備があり、テント、シュラフ、ランタン、コンロなどの貸し出しもある。



図 5 ピンネシリオートキャンプ場

3 中頓別鍾乳洞

新生代第三紀（約 1,000 万年前）頃このあたりは海の底だったといわれ、貝やフジツボの殻が密集して堆積し、それがやがて石灰岩になったもの。地殻変動で隆起した石灰岩が長い年月の間に溶けてできたのが、軍艦岩である。その形が軍艦に似てことから名づけられた。このような石灰岩の中にできた鍾乳洞は非常にめずらしく、学術上貴重である。



図 6 鍾乳洞内部

6. 特産品

「黄金色のときめき」という砂金の缶詰は人気が高いそうである。中には砂金を掘るときに使うゆり板のミニチュアが入っている。



図 7 黄金色のときめき

また、ゴールドラッシュで栄えた中頓別ならではの金箔を練りこんだ羊羹「砂金羊かん」もある。



図 8 砂金羊かん

このように中頓別町では、砂金を利用したまちの活性化が行われている。今回は触れなかったが、中頓別町について調べていくうちに中頓別町の人々が自らのまちをととても好きなことが伝わってきた。まちの 8 割が森林ということや乳牛がたくさんいるということもあり、中頓別町の自然を見つめ直す機会がたくさんあるようだ。また、一流の中頓別（い

なか) づくりと題して町民の意見を取り入れながらのまちづくりも展開されている。

<http://www.town.nakatombetsu.hokkaido.jp/> 中頓別町ホームページ

<http://www.toukei.maff.go.jp/shityoson/map2/01-03/513/index.html> わがマチわがムラ

<http://www.souya.pref.hokkaido.jp/main/index.html> 北海道宗谷支庁ホームページ